

【開催レポート】アヤセ未来会議 第2回を開催しました！

作成：株式会社エンパブリック

令和4年11月26日（土）、第2回アヤセ未来会議をオーエス東京ビル5階で開催しました。

第2回では「ローカルプレイヤーから学ぼう」をテーマに、綾瀬で活動をしている方々に加え、会議に参加している方々が知り合い、自分の経験を共有することで、綾瀬と綾瀬にいる人との相互理解・交流を深めました。

参加者は前回と同様に、公募により選ばれた綾瀬地区とその近隣にお住いの15名（+ゲスト3名）の方にご参加いただきました。当日は見学にも多くの方にご参加いただきました。

1. アヤセ未来会議について

最初に全体ファシリテーターの広石(株式会社エンパブリック)と担当課の伊東課長から、改めて全5回の会議の進め方と今年の未来会議のゴールについて説明しました。

広石：アヤセ未来会議では、綾瀬をもっと好きになるために、街の人と繋がるために、自分達に何ができるか、街でこういうことができたらいいなといった、新しい発想をみんなで話し合ってお出せればいいと思います。



伊東課長：暮らしの賑わいというのはみなさんのアイデアで生まれます。それは、区では手が届かないところ です。街が豊かになっていくために、2030年に向かって、「発言したら誰かに繋がることできる」そういう文化ができていけばと思っています。何ができるか話し合い、活動してネットワークを持っている人たちと繋がっていきましょう。皆さんがアクションしやすい環境を整える、環境整備のヒントを一緒に考えていきたいと思っています。



2. 自己紹介

参加者全員で輪になって自己紹介をしました。

自己紹介では、自分の住んでいる場所や仕事、自分の気になるテーマについてお一人ずつ話されました。さらに、自己紹介後の休憩時間には、名刺交換など活発な交流がみられました。



3. テーマトーク「地域で仲間を作って活動するには？」

ワークショップでは、既に地域で活動をしている方の活動紹介をもとに、参加者全員で地域で活動する時に意識しているポイントを考えました。

活動シェア① 泉美智江さん（トーキョーコーヒーあだちかつしか）

はじめに、「トーキョーコーヒーあだちかつしか」の運営や、NPO 足立たすけあいワーカーズ事業「放課後ひろば maru」に携わっている泉美智恵さんから、「地域で活動を楽しむ」というタイトルで、活動のきっかけやポイントについてお話をいただきました。



泉さんは、生活クラブ（生協）へ加入後、そこで行うさまざまなイベントの企画・運営に奔走しながらその大変さを痛感してきました。

そんな中、さまざまな社会活動家の言葉に触れ、「自分がワクワクすることじゃないと人は集まらない。」という言葉に感銘を受けました。それらの言葉から、自分たちが楽しそうにしていると人が集まってくることを実感し、イベントの考え方を改めて自分がワクワクするものを中心にして実践を繰り返してきました。

“私の場合は、出かけて、しゃべって、を繰り返していたら自然に仲間が増えてきました。”

そんな泉さんからは「まず素直にやってみる」「地域のイベントにどんどん参加する」「やりたいことをまわりに口にする」など、様々なポイントを話していただきました。

- ・まずは、近くの地域のイベントに参加してみて、その人と喋ることから始めてみる。そこで、ラインやインスタグラムの交換をしていくと、また新しい人やイベントとの出会いがある。
- ・イベントでは、一番前の席に座る、何でもいいから質問してみる。
- ・「やりたいことを周りの人に口にする」と、アイデアが出てきたり、何かを提供してもらえたりする。
- ・大切なのは、トライアンドエラーでどんどんやること。とにかく落ち込まないこと。



泉さんご自身も以前は目立ちたくないタイプで、積極的な行動はできなかったそうです。

ただ、たくさんのトライアンドエラーを経験し、その中で地域に仲間を増やしてきた泉さんだからこそ、誰もがすぐに実践できる具体的なポイントをお話くださいました。

活動シェア② 下出誠さん（いろどりの杜）

次に、いろどりの杜住人の下山誠さん（グラフィックデザイナー）から、いろどりの杜のご紹介と活動やそのエピソードについてお話いただきました。

2020 年に団地をフルリノベーションしてできたいろどりの杜では、豊富な共有スペースを使い団地内外にむけた様々なイベントが行われています。また、基本的に全てのイベントは住民が関わっており、DIY や音楽活動など、それぞれがやってみたいことやできることを持ち寄って実現しています。

また、アーティストとして活躍されている下出さんは、子供たちが自由にアートに触れるイベントを開催するなど、団地という資源を利用して地域と繋がっています。



それら活動を通して、下出さんは「私の実際の役割は、その場に熱量を与える人間であることだと考えています。」とお話しされました。そのきっかけとして、カルピス生誕100周年に向けて、毎日カルピスの新しいパッケージをデザインしコツコツと SNS にアップした結果、その作品がカルピス生誕記念ポスターに起用されて記念パーティーに登壇したというエピソードがありました。

“自分ができることを続けていくことによって、自分とか自分の周りとか、その他にも思いが伝わる。同じようにして綾瀬の価値が遠くまで伝わると考えています。”



つい大きな活動をしなればと思ってしまいますが、まずは自分が「やってみたい!」「やるぞ!」と決めたことをコツコツと続けていくことで、その熱量が地域にも伝わっていくという、地域活動を始める方にとって強い励ましになる言葉をお話しくださいました。

活動シェア③ 佐々木隆紘さん（駄菓子屋かしづき）運営

最後に、駄菓子屋かしづきオーナーの佐々木さんから、駄菓子屋を運営しながら考えていること、活動する上で大切にしているポイントについてお話しいただきました。



平日は理学療法士として勤務されている佐々木さんは、これまでもその知識を活かしたワークショップやイベントを行なってきましたが、地域外からの情報感度が高い人しか集められないという実感がありました。そこで、近所の人と繋がるために、一年半前から月数回駄菓子屋を始めました。近くには小学校、幼稚園があり、営業日にはその児童や保護者がお菓子を買いに訪れます。

“駄菓子屋をやっていますが、駄菓子売りたい訳ではありません。いろんな子供と関わりたい、保護者が持つ子供の成長に対しての不安を解消できる関係を作りたい、という思いから、フックとなる場所を作りました。駄菓子屋の良さは、ハードルの低さにあります。気負わず、来てもらうことができます。幅広い層の方に、継続して来てもらえます。顔見知りになると、子育て相談をしたりもできます。”



活動については、今の時代は子供も大人も多様でこれといった方法論はないからこそ、自分も目的意識を持って、試行錯誤していくことが良いのではないかと、ご自身の経験を踏まえてお話しいただきました。

さらに、付け加えて「僕は本当はすごく人見知りなんです」とお話しされた佐々木さんの丁寧な気配りや関係づくりが活動に生きていると感じました。

4. 対話「綾瀬での仲間・チームづくりで工夫してきたことは？」

「綾瀬での仲間・チームづくりで工夫してきたことは？」というテーマでグループになって対話の時間を持ちました。

参加者からは、町会や職場、地域活動での経験から、仲間づくりで大切にしているポイントやその難しさ、それぞれが行なっている工夫を共有する姿が見られました。

さらに、そこから発展して自分がこれから広げていきたいコミュニティや動きの話、自分ではまたリーチが難しいと感じているポイント等も共有されていました。



<参加者のコメント(抜粋)>

- ・地元のキーパーソンを抑えることが大事
- ・お店や人など、情報だけではなく、実際に足を運んで会いに行ったり、見に行くことが大事。
- ・家庭の中だけではなく、外にも繋がりがあればいいと思う。広く浅くでいいので、コミュニティーがあればいいと思う。自分は人見知りなので、いきなり飛び込めない人のための橋渡し役になりたい。
- ・情報が流れてこない（インスタをやっていないと情報は得られない？）ので、自治会の看板は使えないのだろうか。
- ・子供たちにモノづくりに興味を持ってもらい、体験の場を作りたいという思いがある。何ができるか考えていきたい。
- ・会場を解放してイベントをやっているが、毎回同じ内容なのでもっと新しいことを考えたい。

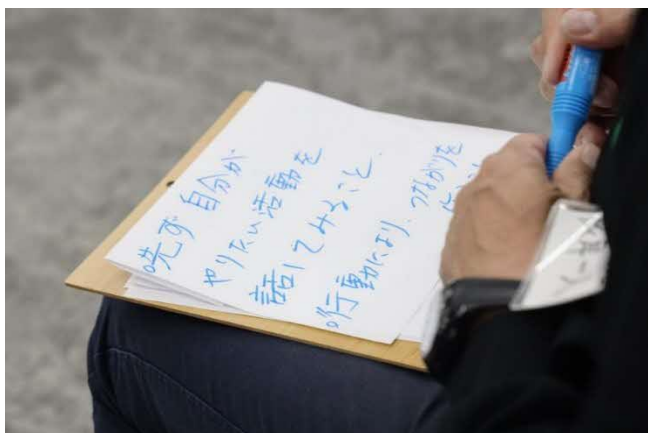
<グループで話し合ってみて思ったこと>

- ・まだ具体的な活動はできていないが、今後ここでの活動や皆さんのアイデアを参考にしていきたい。
- ・まずは仲間を作らないと、と思った。どういう場所で、どういうふうに人を呼ぶのなど。人が集まってくれるためにこういう方法があるよといったことを聞いたのが良かった。
- ・いろんないい活動はあるが、なかなか住民も知らないことが多い。もっと情報拡散ができるようになったら良いと思った。



5. ふりかえり

最後に各自が“ふりかえり”としてA4の紙に色とりどりペンで、「仲間・チームづくりで大切にしたいポイント」について気づいたことを書き、全員で共有しました。



《参加者から出てきた「仲間・チームづくりで大切にしたいポイント」》

新たなことに来る、出会うことの大切さを感じました。 熱意あふれるこの場で楽しいことが生まれると 確信しました。	1.“面白い”ファースト 2.何だって良い まずは行動あるのみ 3.共感が大事
共感のアウトプット	自分ができることを地道にやる 小さいことでいいからやってみる
・オープンな空間＝外から見える場所 (ex.い通りの杜、かしづきののき先) ・問題意識の共有 ・グループ側からの外部へのリーチ	手段の例/街角の広告板（回覧板の復活） 想像以上の活動不認知 熱が伝わらずもったいない 目的：高伝導な街づくり！！
一人一人の個性や強みがあっても何かをやろうとした時に難しさを感じていたが、今回の皆さんの発表で、仲間を作る、皆で取り組むことの大切さがわかりました。	・先ず自分がやりたい活動を話してみること ・行動によりつながりを作ること
自分のやっていることが他人に理解される難しさ。 メンバーの気持ちに添う	大切な事 地元愛 コミュニケーション、情報交換
1.「自分の強み・関心事」×「アウトプット 形にする力」 イベント場づくり 2.未来の子供たちへのアクション	・「問題」「意識」×「強み」 ・小さく始める
・広く浅く ・声がけ	・とりあえずやってみること！！ ・熱意

コミュニティの作り方は多様で様々なアプローチがあると良い その手段を考えていきたい	<u>言う</u> ・声掛け ・しゃべる ・アウトプット
コミュニケーション	

終わりに

第2回のアヤセ未来会議では、実際に地域活動をしている方々から経験談を聞き、共有したことで、活動とはどういったものがあるのか、具体的にどういったことなら始められるのか、大きく始めるのか小さく始めるのか等、具体的な動きのイメージが見えてきたという様子が伺えました。

今後も参加者同士がさらに話しながら、お互いのできることを持ち寄って良いアクションが生まれるようなコミュニケーションの機会をつくっていききたいと思います。